

## ■現在の急激な株安はどこまで続くのか

	コメント
ニッセイ基礎研究所 チーフ株式ストラテジスト 井出 真吾氏	間もなく下げ止まるが、当面は一進一退の神経質な展開が続く。下値メドは18,800円程度。
ピクテ投信投資顧問 投資戦略部 ストラテジスト 糸島 孝俊氏	3月末までに一度底入れ。日経平均の底値目処は18500~19000円。
大川 智宏コメンテーター	短期下値メドは2018年12月の予想PER基準をターゲットにすると18000円。3月中、数日中に付かなければ一旦底打ち。その後戻すとしても21000円程度が上限か。
崔 真淑コメンテーター	為替と、各国の渡航制限ラッシュ、感染状況…これらの要素がどう動くかで予想は変わるとの前提で…次の節目となるだろう17000円を一つの目処に。ただし、鎖国状態で、過去の不景気を救ってくれた貿易面も期待できないのに、底抜けリスクはある。

## ■相場の急激な変動に伴い、備えておくべきリスクはあるか

	コメント
ニッセイ基礎研究所 チーフ株式ストラテジスト 井出 真吾氏	ファンドの凍結。リーマン・ショックの一年前、パリバ・ショックが遠因でした。
ピクテ投信投資顧問 投資戦略部 ストラテジスト 糸島 孝俊氏	欧米などでのパンデミックによる世界経済のさらなる減速。この場合、再度下落へ。
大川 智宏コメンテーター	少なくとも今回の下落はまだ本格的な景気後退を織り込んだものではなく、今までのパブ的な流動性相場に対するただの調整相場(過熱感の是正)。リーマンショックなどと比べると人が散見されるが、少なくとも現段階ではまったく見当違い。 そのため、短期は需給の巻き返しのみで強烈な自律反発とリバーサルが発生するため、弱気にポジションを傾けている場合は注意。とはいえ、中長期は景気後退(日本ではすでに昨年末時点で景気後退が始まっている)が本格的に織り込まれるため、株価は大きくは戻らず過度な期待を持って景気敏感に大きくシフトするのは自殺行為。
崔 真淑コメンテーター	デフレマインドの復活と雇用の収縮。消費の源泉であり、個人投資家の資金動向を考える上での間接的な注目点。既に1月の有効求人倍率=経済の先行指標が、リーマンショック以上の下げを記録。過去の学術研究では、リーマンショック時の過度な円高の際や、これまでの円安における雇用の影響を検証しているが、円高の際は一気に雇用収縮に動くが、円安による雇用増加は限定的との指摘。一気にデフレと失業者の増加が懸念される。

## ■マーケットが激変する中、取るべき投資行動はなにか

	コメント
ニッセイ基礎研究所 チーフ株式ストラテジスト 井出 真吾氏	投資先(資産クラス、業種、銘柄)の分散と、投資タイミングの分散(時間分散)を徹底すること。いわゆる『買いたがる』つもりで。
ピクテ投信投資顧問 投資戦略部 ストラテジスト 糸島 孝俊氏	大きな流れが変わった可能性もある。最悪なことも想定して相場に挑むことが大事。
大川 智宏コメンテーター	短期はリバーサルに備えてひたすら景気敏感および金融のナンピン買い。もしくはシンプルにスイングトレード。底を取れなくても、トレードアイデアとしてはこれが今一番手堅い。中長期は、どちらにしろコロナは回復するので売られまくったサービス系、小売り系を淡々と買い増していけばいい。
崔 真淑コメンテーター	債券が機能しない状況なので、日本円以外の先進国通貨や、金といった、流動性が高く現金に近いものを。リモートワーク株ブームも、そもそもの仕事の需要がなければ意味がない。